



『創作童子の里石像』（原石・愛知県産「花沢小目石」）

（長男寛樹をモデルにした像。リンゴとサクランボ、そして子供達を表す）

1998年制作（縦90.9cm×横幅60.6cm×奥行60.6cm）山形県山形市（株）石正所有

長岡 和慶（ながおかわけい）

長岡和慶（ながおかわけい）昭和30年～（1955～）彫刻家。北海道滝川市生まれ。現在、愛知県岡崎市在住。22歳の時、彫刻家の兄・の勧めで石造彫刻の世界に入る。以来860余体の石仏、石像を世に送る。代表作に、大英博物館（イギリス）の『須弥山童子六地藏』、ライプチヒ民族博物館（ドイツ）の『内裏雛』、ハワイ浄土宗別院の『救世仏像』、東大寺の『十一面観音』、比叡山延暦寺の『伝教大師最澄像』、永平寺の『道元禅師像』、三井寺の『大日如来像』、善光寺の『童観音像』などがある。1990年『長岡兄弟仏像彫刻写真集』出版。2000年巨刹総本山三井寺より、石では日本国内外初となる大仏師の称号を兄と共に受ける。2001年『石仏を彫る』出版、2002年『永遠の美空ひばり像』を塩屋埵灯台下建立。2008年詩人谷川俊太郎詩碑を三ヶ根山頂に建立。2010年京都三千院より大仏師の称号を兄弟共に授与。2011年『長岡和慶の世界』を出版。2020年『第60回日本藝術選奨大賞・彫刻部門大賞』受賞。2020年サンガスタジアム京セラに『蹴鞠像』を建立。2022年厚生労働大臣表彰「現代の名工」を授与。細部にまで妥協を許さない独自の作風は広く知られている。日本石仏協会理事。